



眼科における抗VEGF薬治療について

眼科 山田 芳博

血管内皮増殖因子 (vascular endothelial growth factor: VEGF) が眼内において増加することで発症もしくは悪化する疾患として、加齢黄斑変性症・糖尿病網膜症・網膜静脈閉塞症・近視性脈絡膜新生血管があります。これらの疾患に対し抗血管新生・抗炎症作用を持つ抗VEGF薬を硝子体内に直接注入することで、新生血管の活動性を低下させ、さらに新生血管からの滲出を抑制し、視機能の改善や維持することが可能となりました。抗VEGF薬の登場により眼科医療は大きく変わりました。

当院では3種類の抗VEGF薬（アイリーア[®]、ラニズマブBS[®]、バビースモ[®]）を採用しており、診察時に重症度や治療効果を判定し、薬剤を選択しております。

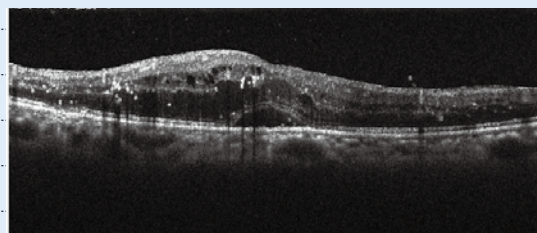
<投与方法>

感染予防のため、治療の3日前から、抗菌剤を術眼に1日4回点眼していただきます。当日は点眼麻酔の後で眼を消毒し、注射針を用いて硝子体内に直接注入します。しばらく外来で休んでいた後で帰宅していただき、注射翌日と1週間後の再診にて感染の有無や治療効果を判定します。その後は約1〜2か月ごとに診察し、追加治療が必要かどうかを診断します。

<抗VEGF薬による治療効果>

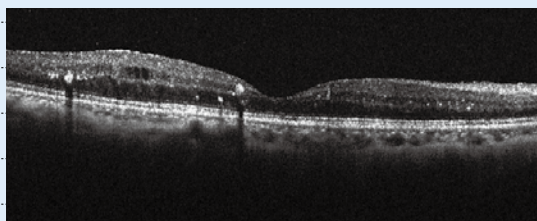
・糖尿病黄斑浮腫にアイリーア[®]注射施行例

注射前：黄斑浮腫にて矯正視力 (0.3)



注射後2か月：

黄斑浮腫改善にて矯正視力 (0.5) まで改善



最近では眼科医院からのみでなく、他科診療所からのご紹介で加療する症例も増加傾向にあります。全体的な霞みが主訴の場合は白内障が原因であることが多いのですが、中心部の見にくさや歪み、視野障害のある方に対しては、抗VEGF薬による加療の適応となる可能性がありますので、是非当科にご紹介いただけますと幸いです。

研修・講演・学習会のご案内



1. 地域連携症例検討会（ハイブリッド開催）

日 時：11月12日（火） 19:00～20:00

場 所：当院3階 講堂

1) 症例検討

『血漿交換と免疫抑制療法に加えカプラシズマブを投与し

軽快した後天性血栓性血小板減少性紫斑病』

血液内科 洞口 龍介

2) ミニレクチャー

『当院の無痛分娩と周産期転帰について』

産婦人科 長谷川 徹

硬膜外麻酔による無痛分娩は本邦においても徐々に普及しており、全分娩に占める割合は2007年の2.6%から2020年には8.6%に増加している。当院でも2010年より導入しており、その占める割合は年々増加している。

当院の無痛分娩はあらかじめ日を決めて行う計画分娩で、クラス受講などで概要を理解していただいたうえで希望者に行っている。多くは子宮頸管の拡張や熟化促進のため吸湿性頸管拡張材やメトロイリント、ジノプロストン腔内留置用製剤を使用し、その後に陣痛促進剤（主にオキシトシン）による分娩誘発を行っている。硬膜外麻酔は麻酔科が施行しており、これまで重篤な麻酔合併症はみられて

いない。薬剤の投与法は、2018年よりそれまでの持続投与法に替えてPIB (Programmed Intermittent Bolus) 法を用いている。

当院の無痛分娩症例の周産期転帰を同時期の非無痛分娩症例と比較検討したところ、分娩時出血量や緊急帝王切開率などに差はなかったが、分娩第2期が延長しやすいため吸引分娩などの介入が必要な症例が増加していた。新生児ではApgar scoreや蘇生を要する症例に差がなかったが新生児黄疸が増加していた。

高いニーズのある無痛分娩を今後も継続していくため、その特徴を理解して安全な分娩管理を行っていく必要がある。

予告

12月は症例検討2例、ミニレクチャー1題の拡大版で開催いたします。

先生方のご参加をお待ちしております。

日 時：12月10日（火） 19:00～20:30（ハイブリッド開催）

場 所：当院3階 講堂

内 容：①症例検討 2例 （担当）呼吸器内科 フェロー発表

②ミニレクチャー 1題 （担当）緩和ケア内科

2. 糖尿病研究会

日 時：11月14日（木） 17:45～18:30

場 所：当院3階 講堂

テーマ：糖尿病デーイベント

糖尿病と足の意外な関係について知っていますか？

講 師：内分泌代謝内科医師 家城 恭彦



作：病院ボランティア 篠崎 佳子

特定行為看護師の活動紹介

手術看護エキスパートナース
廣田 悟志

当院では医療の質を向上させるために、2023年度より看護師の特定行為研修を行っています。
特定行為看護師とは、特定の診療行為において医師の指示のもとに適切なタイミングで業務を行うことが認められた看護師のことです。全部で38行為あり、それぞれに高度な知識と技術を求められ、医師の到着を待たずに迅速に適切な対応を行うことで患者さんの状態を安定させることができます。

私は本年、当院での研修を修了し、特定行為看護師としての活動を実践しています。日々の看護業務をおこないつつ、特定行為看護師として主に末梢中心静脈カテーテル(PICC)の挿入や動脈ラインの確保、依頼があれば病棟で血液ガスの採取などを行っています。

特定行為研修修了者の3割程度は就業先において特定行為を実施できていないという報告もあるなかで、私の選んだ分野は実践できる機会が多く、なかでもPICCの挿入に関する研修施設は富山では当院のみという特色もあります。そのような環境のもと今後もチーム医療の一環として、医師や他の医療スタッフと密接に連携し患者さん一人ひとりに最適なケアを提供することを目指していきたいと考えています。

特定行為看護師は今後さらに必要性を増し、医療の現場において多くのメリットをもたらすと考えています。医師の負担軽減、治療の質向上、患者さんの安全性向上など、その影響も広範囲に及びます。これからも特定行為看護師としての活動を意欲的にを行い地域医療の発展に貢献してまいります。



医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

11月

科 名	医師名	不 在 日	科 名	医師名	不 在 日
内 科	大 田 聡	15日、25日、26日	整形外科・関節再建外科	重 本	8日、25日
	水 野	1日	形 成 外 科	稲 垣 洸	14日、15日
	浅 野	22日	皮 膚 科	野 村 佳	7日、25日
	種 井	8日		東	11日
精 神 科	長谷川雄	27日 29日		服 部	27日、28日、29日
呼吸器・血管外科	湖 東	8日	耳鼻いんこう科・頭頸部外科	辻	28日
眼 科	山 田 芳	15日	歯 科 口 腔 外 科	寺 島	27日
	村 上	22日		朽 名	1日、13日、22日
				石 坂	1日、11日

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112 (代) 内線2168

編集後記

患者さんの当院退院後の療養先をご家族と相談していました。受け入れ側の条件と患者さんの状態が合致せずなかなか療養先が見つかりません。ある施設に相談した時、受け入れ可能かもしれないと仮の返事をいただきましたが、最終的には難しいとの判断となり肩を落しました。

ところがその施設の相談員の方が、数か所他施設に声かけをしてくださり受け入れ施設が見つかったのです。相談員の方の親切な対応とネットワークに助けられました。受け入れ先が見つかったことはもちろんのこと、それ以上に困っている時に手を差し伸べていただいた気持ちが大変うれしかったです。

精神保健福祉士 中村 里佳

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。
送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1112 (代) / FAX 076 (422) 1154
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> / がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp

